

治療終結を検討している患者への支援

～「治療終結を考えているあなたへ」冊子の有用性の検討～

◎田邊加代子<sup>1)</sup> 小松原千暁<sup>1)</sup> 福田愛作<sup>1)</sup> 森本義晴<sup>2)</sup>

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

当院では、治療終結を検討している患者への支援として、2016 年より当院独自の冊子「治療終結を考えているあなたへ」を作成し配布している。今回、本冊子の意義と効果を検討する目的でアンケート調査を行ったのでその結果を報告する。

【方法】

2016 年 2 月～2018 年 12 月までの治療終結検討患者 183 名に冊子配布と同時に自由記述式アンケートを配布した。匿名性の保持を保障した上で質問紙調査の内容を学会発表する旨を記載し、同意の上回答の得られた者の質問紙を回収した。

【結果】

アンケート配布数 183 名、回答数 20 名 (10.9%) であった。「冊子は役立ったか」に対しては 14 名 (70%) が「役立った」と回答し、「心身の変化などが分かり気持ちが楽になった」「心が癒され前向きになれた」等の記載があった。「読みたい時期」には「治療終結を考え始めたころ」が 16 名 (80%) と多数を占めた。「看護師より受け取った時の気持ち」には「良かった」11 名 (55%)、「喪失感を理解してもらえた気持ちになれた」「温かい気持ちになった」等、「どちらでもない」8 名 (40%)、「現実を受け止める事で精一杯だった」「もう少し早く欲しかった」等の記載があった。治療終結へ至る過程や自己の受容、価値観の変化について肯定的に捉えた意見以外に、治療終結という現実を受容することの難しさについて触れる内容が記述されているものも見られた。

【考察】

不妊治療終結において、患者は治療中の思いを振り返り整理し、心理的葛藤を抱えつつ治療終結を受容する事の難しさを感じていた。気持ちを整理する行程や治療終結後の生活について記載している冊子を配布する事には、7 割の患者が役立ったと回答した事より、この冊子の配布には意義があると考えられた。

【今後の課題】

治療終結を考え始めた時期に、患者自らが自分の意志で情報を得て意思決定できるよう、情報提供の時期や方法の改善、また相談システムの構築を検討したい。